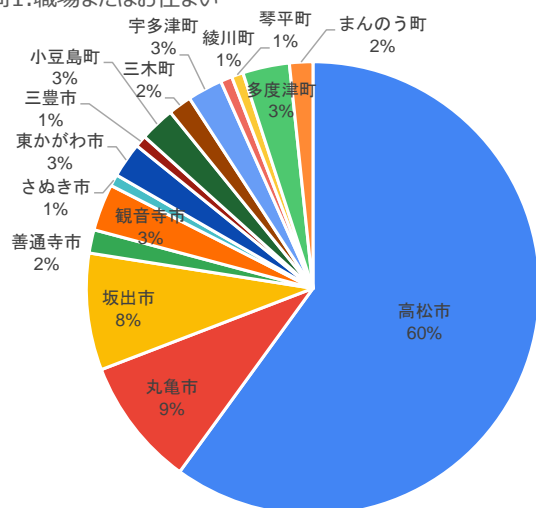


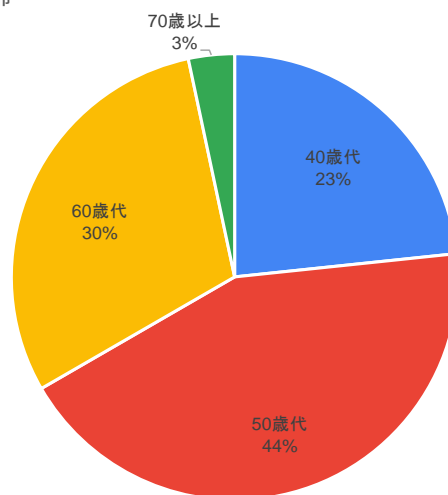
「介護支援専門員の倫理とジレンマ～専門職としての在り方～」

【回答率:88.2%(n=120)】

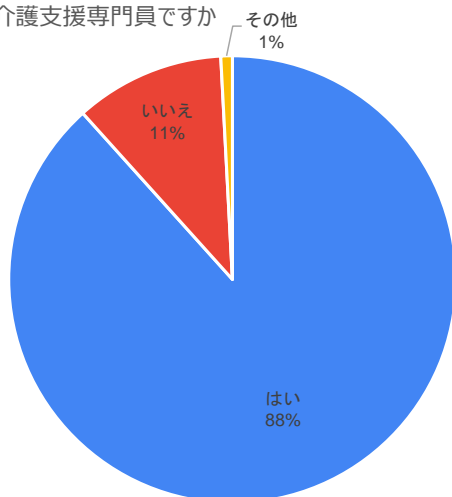
問1.職場またはお住まい



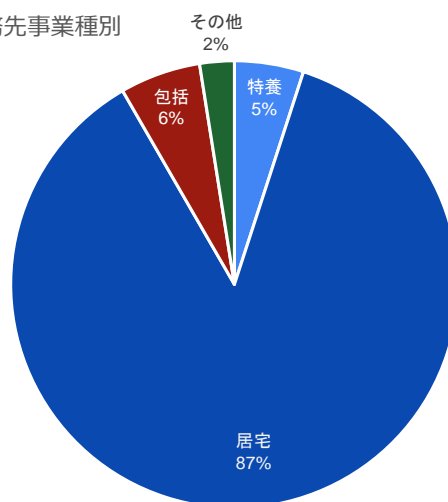
問2.年齢



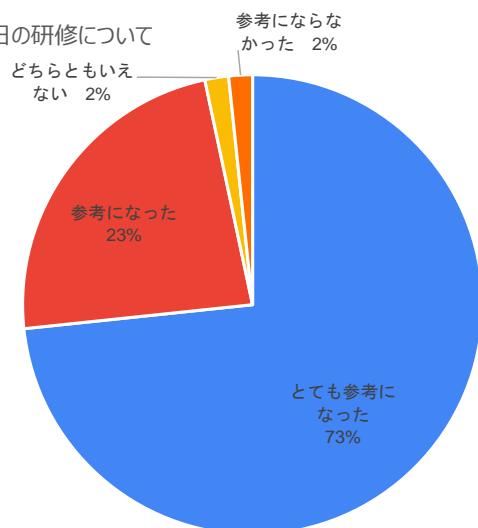
問3.主任介護支援専門員ですか



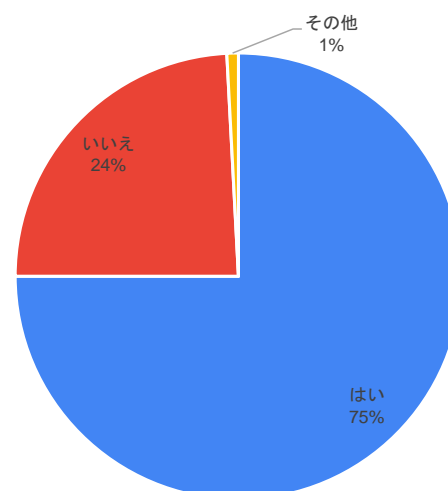
問4.勤務先事業種別



問5.今日の研修について



問6.今までケアマネジャーとしての倫理観について考えたり、



問7. 問6で「はい」と答えた方、どのようなことを考えたり、研修を受けて印象に残ったりしていますか

(まとめ)

○倫理はケアマネジメント業務の「基盤」「根幹」であることの再認識

- ・多くの回答で、倫理は介護支援専門員としての業務の基本であり、専門職として欠かせない視点であるとの認識が示されていた。
- ・「常に意識すべきもの」「根っこ部分」「業務の基盤」→日常業務を振り返り、再認識する機会になったという声が多数見られた。
- ・研修会と通じて、自身の考え方の癖や価値観を見直すきっかけになった。
- ・専門職としての自覚を改めて持ちたいという意見も多く見られた。

○ジレンマへの共感と向き合い方の学び

- ・「本人の意向と家族の意向の対立」「価値観の違い」「公正・中立の維持」等々、現場で直面する倫理的ジレンマについての記載が多数見られた。
- ・講義やグループワークを通して、「ジレンマは誰もが抱えているものだ」と分かり安心した(自分だけではない)」「向き合い、考え続けることが大切だと感じた」といった意見があり、孤立感の軽減や気づきにつながっていると考えられる。

○倫理綱領を指針とすることの重要性

- ・定期的に倫理綱領を確認し、ケアマネジャーとしての立ち位置や倫理観を再確認、また立ち返ることの重要性を再認識。
- ・ジレンマを感じたとき、判断に迷ったときなど、倫理綱領を確認することで冷静な判断につながる。

○継続的な研修の必要性

- ・倫理観の持ち方には個人差があること、組織や管理者層も含め学ぶ必要がある。
- ・倫理は一度学んだら終わりではなく、定期的に学び、振り返りを続けることが重要。
→「繰り返し学ぶことで、ジレンマが軽くなる」といった声もあり、継続的な研修の意義が確認された。
→今後も、現場の悩みを共有できる場や倫理綱領を軸とした継続的な学びの機会が必要。

問8. 今日の2回目のグループワークのテーマでまだ言い足りない、もやもやしていることはありますか？

(まとめ)

○本人・家族・関係各機関との関係性 → どこまで関わるべきか、どの立場を優先すべきかの判断に迷う場面が多い

- ・家族関係が複雑なケースの関わり(どう対応すればよかったのか。うまく間を取り繕わないといけない。)
- ・利用者本人と家族との意見の相違。平行線のまま。
- ・家族自体が問題を抱えていて、利用者本人やケアマネジャーが振り回された
- ・結局ケアマネがしてくれるじゃん、と投げっぱなしにする家族や事業所への対応時のこと
- ・医療関係者(特に病院)の「とりあえずケアマネに」を私たちが甘受しないようにしたい。
- ・医療系専門職と意見の相違があったときの対応に苦慮していて、自分が感じていることを言語化することの難しさを感じている。
- ・利用者からのカスタマーハラスメントについての事例
・シャドーワークについての事例
- ・解決が必要な場合何かできるか。何をすべきか。ジレンマの明確化・整理する事が大切であると思った。整理しないまま悩んでいても良い策にたどり着かないと思った。また第三者の視点も特に大切で、取り入れていきたいと思う。

○組織・制度・職種間のジレンマ → 個人の努力だけでは解決しがたい課題に、無力感や疲弊を感じている

- ・管理者とのジレンマ
- ・自社サービスの利用を強要される。そうしないと嫌味を言われる。(解決方法があるのか、諦めるのか、講師の意見を聞きたかった。)
- ・認知症の方の本人、家族の意見の相違によりサービスが導入できない場合やサ高住などサービスの選択肢が限定されることが多く、利用者の状態が悪化する場合も多い。
- ・施設ケアマネと居宅ケアマネとの利用者に対しての齟齬。立ち位置の違いからくる見解の違い。
例)施設ケアマネ「在宅系サービスを利用しながら居宅で生活ができるのでは?」、居宅ケアマネ「本人やご家族の意向も考慮したの決断(入所希望)」

○相談・共有の場へのニーズ → もっと時間が欲しかったという声も多く、悩みなどを共有し合う場の必要性

- ・自分だけないと分かり安心した。
・話すことで整理できた
・共感できた
- ・GWで辛い体験談を語った方に対して、言ってあげれる言葉がなく力のなさを感じた。自身の中でもやもやしている。
- ・モヤモヤすることは常にあるが、繋ぐ仕事の大切さを感じている。
- ・ケアマネジャー1人では、支援は成立しないと思う。相談できるところ、仲間がいるからこの仕事続けられているんだと思う。
- ・対面の方が相手の表情や声がダイレクトに伝わるし、相槌などの反応もよく分かるので良い。

○ケアマネ自身の負担とセルフケアへの意識 → 自分自身を守る視点の重要性

- ・完全には解決しないことばかりなので、倫理に立ち返り、自分が倒れないようにするしかないと思う。
- ・ケアマネに求める事が多すぎる。支援支援と言いながら担当すべき部署・職種がしない為に、誤魔化しながらすりつけられている。
- ・このジレンマやシャドーワークのためにケアマネをやめた人もいる。せっかく資格を持ってもケアマネはしない人もいる。どうにか出来ないのかと思うがある。
- ・一人ケアマネや小規模事業所での過重な対応、シャドーワークなどにより心身ともに厳しい状況がある。とにかく抱え込まないこと。

問9.今日の研修で参考になったところがあればお書きください

(まとめ)

○「倫理綱領」に立ち返ることの重要性の再認識

倫理は抽象的な概念ではなく、日々の業務や意思決定の場面で具体的に活用できる指針になることを、改めて理解できたという意見が多く挙げられていた。

- ・自分の価値感や判断などで迷う時、今回の研修を思い出し、「介護支援専門員 行動規範」が羅針盤になったと思った。
- ・介護支援専門員の倫理観は定期的に再認識する必要があると感じた
- ・倫理綱領を月に一度は見返しバイブルとしたいというご意見に賛同
- ・ケアマネジャーとしての対応時に指標となる倫理綱領や行動規範が役立つ。定期的に研修や振り返りが必要と思った。
- ・倫理綱領を読み返し、自身の支援について振り返ること

○専門職としての基本姿勢

単なる制度運用ではなく、専門職としての自覚と責任をもって業務にあたる必要性を再確認できた点が、学びとして挙げられていた。

- ・介護支援専門員は専門職であり知識、技術、倫理を習得しなければならない
- ・説明責任の大切さ(丁寧に、分かりやすく、納得できる説明を。)
- ・今後も利用者、家族、関係機関、社会から必要は存在といて認められるよう励みたい
- ・相談援助の専門職として、利用者の気持ちに寄り添いながらも自分の感情はツールとして上手く使い、決して流されないようにすべきだと認識した。

○利用者本位と意思決定支援の考え方

本人の意向を尊重することを基本としながらも、家族の意見や様々な背景を踏まえて調整していく視点が参考になったという意見が多く挙げられていた。

- ・長く仕事をしていると「仕方がない。それぞれ考え方は違うもの。」と思っていた事が”ジレンマ”だったと再認識した。
- ・本人の意思決定が難しい場合でも、可能な限り自己決定できるように支援を行っていく
- ・利用者本人が全て決断するのではなく、自己決定の先にどのような生活が想像できるか説明する。
- ・マズローの欲求を思いながら本人の意向の確認をして行くと深堀できる。

○倫理的ジレンマへの向き合い方

現場で避けられないジレンマについては、「立ち止まって整理する」「倫理に立ち返る」「ひとりで抱え込まない(相談する)」ことの重要性が参考になったという意見が多く見られた。

- ・講師の話の中で、「専門職はジレンマは必ずある。しかし、そのジレンマを受け入れていけるかが重要である。」との話があり印象に残った。
- ・ジレンマを成長の機会と捉える
- ・皆さんのジレンマを聞くなかで、自分だけではないのだと安心した

○自分自身を守る(セルフケア)の視点

無理を重ねるのではなく、専門職として適切な距離を保つことも大切と学びとして受け止められている。

- ・自分を守るためにも倫理は必要であると感じた
- ・自分の身を守るためには倫理を持っていなくてはならないことがよくわかった

○その他

- ・グループワークで司会が当たり、「要約してわかりやすく伝える」ということで、良い勉強をさせてもらった。
- ・同じグループの方のジレンマを聞いて、皆さん悩みながら支援していることを共有でき、参加して良かったと思った。
- ・グループワークで、いま抱えているケースについてのヒントが得られ、良い機会となった。
- ・仕事に対する魅力を見失っていた。先生の言葉で、利用者の一番近くにいることが出来る職種だと考えると、何だか嬉しく、励まされる気持ちになった。
- ・今までは倫理とはで堅苦しく、重たい物だと勸化していたが、大島先生のお話は奇麗ごとばかりでなく本音でお話していただき、失敗することもあり一人ひとりの価値観を大切にしたいうえで関わることの必要性を感じさせられた。
- ・大島先生のお話がずっと入る講義だった
- ・先生のスーパーバイジングを受けることができて良かった。
- ・大島先生の話し方などでとてもわかりやすかった
- ・大島先生が「まず環境を整える」ことを最優先、すぐ動くと言われていたことが印象に残った。自分もそのようにしたい。



たくさんのご意見等、ありがとうございました！

講義だけではなく、グループワークを通して、他のケアマネジャーの考え方や対処法を聞くことができ、視野を広げる機会になったとのご意見が多く見られました。

グループワークはとても盛り上がっていましたね☆

